

第1回大月市立大月短期大学附属高等学校基本問題審議会会議録

日 時 平成17年9月2日(金)午後1時30分～午後3時30分

会 場 附属高等学校 会議室

出席者 委 員 14名

長沼委員、富田委員、斉藤委員、佐々木委員、井上正委員、杉本委員、
小俣委員 原田委員 藤本委員、 平田委員 嵯峨委員、井上武委員、
平井委員 酒井委員 (正木委員は欠席)

大月市

西室市長 山口教育長 小笠原参事教育次長 藤原校長 山中教頭
上野事務局長 横田副主幹 古屋主査

次 第

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 市長あいさつ

4 委員及び職員の紹介

5 役員の選任

6 議 事

諮問について

その他

今後の会議の開催について

7 閉 会

議事内容(会長が議長)

議 長 諮問について説明をお願いします。

事務局 諮問の主旨について説明(別添資料)

議 長 次に資料について説明願います。

事務局 附属高校の沿革、学校組織、指導目標、教育課程と運営等現状と取り組みにつ
いて説明(別添資料 学校要覧)

事務局 決算状況、地区別入学者の推移の状況 附属高校の整備計画の経緯等について
説明(別添資料)

議 長 事務局から説明がありました但何か質問はありませんか。

委 員 平成13年の懇話会は現在も続けているのか。また、いきなり存続か否かと言
っても問題が大きすぎるのでその懇話会の内容がどのようなものか、その辺りから
進めていったらどうか。

議 長 私も当時懇話会の委員でした。基本的には高校の活性化策、高校入試の方法等
12ページにある提言をして、学校にも前向きに対応していただいて、いくつか改
善したと思っておりますが、事務局どうでしょうか。

事務局 提言について内容と対応状況を説明。(別添資料)

委員 少子化のなかで存続ということは慎重に結論をださなければならない。ここで存続についてと言われても意見も出にくいのではないか。個人的には、次世代を担う子供の教育を予算だけできめるというのもどうかと思うので、今日ここで説明を受けたことを次回までに検討するというところでどうか。

議長 皆さん、個人的立場がありますが、議会、中学校、同窓会、PTAなどそれぞれの立場を踏まえて、課題がどこにあるのかどうしたらいいのか意見を出してください。例えば、設備について、プールのない学校は県下でも何校もない。グラウンドにしても生徒1人当りの平米からすると対象外ですし、まして短大の附属ということでも問題点は多々ある。そういう中で存続問題、活性化問題を考えなければならない。質問でもまたはどんなことでも忌憚のないご意見を出していただきたい。

委員 存続に関する事項と言うことで、この資料だけでは、少子化と経営的に立ち行かなくなる状況がわからない、予算の具体的な詳しい資料を出していただきたい。

委員 決算について、県立高校と比較して大きな差はあるのか。

事務局 県立高校の決算と比較したことはないが、多いほうではないと思います。

委員 一般財源の持ち出しについても、県立高校と同じような状況か。

事務局 同じだと思います。ただ、ここでは一般財源と表現していますが、交付税の関係は交付税分・純然たる一般財源とに分けられないので一緒に一般財源としてあります。

委員 短期大学があるが、短大が存続し高校が存続できないということになると市民も納得できないのではないか。短大の基本問題審議会の意見や結果も参考に聞きたい。短大の方が経営的にいいといっても、市民として県立高校へ行けない生徒やその父兄の立場からすると、多少の赤字財政であっても存続は必要ではないか。最終的には答申を出さなければならないが、答申を出せばいいということでなく多くの市民の願いがどこにあるのかも考慮して答申をまとめていただきたい。

議長 この会のあり方、今後の方向性について又、短大の存続との絡み合いも重視して欲しいとのご意見がありました。どういう形で運営や会議を進めていくかどんな資料が必要か希望はありますか。

委員 ここでは続けるにはどうしたらいいのかを議論したほうがいいのか、予算の面、人数の面でどういう状態になれば存続できないのか難しいデータだと思うが、この資料で5年後をみてもかなりの人数の生徒の減少があって人数的に存続できるのか、高校はある程度的人数がないと高校の機能が果たせないのもその点も含めてデータを出していただきたい。

委員 今回の諮問が附属高校の存続に関する事項、発展、活性化策に関する事項となっているが、発展・活性化策については平成13年の提言もあるが、存続に関することについて、存続させることを前提にいかしたら存続出来るのかについて我々に求めているのか、そうではなくて、存続も含めた廃止もあるということについて我々に求めているのか、スタートで明確にしておくべきではないか。

議長 存続ということは学校が在ることで、諮問の2項目について発展と活性化策に

については在る事を前提にしないと発展活性化策は出てこない。ただ、そういう事を議論したなかで、ほんとに発展・活性化できるのか出来ないのかということが存続の軸になる。こういう事を検討いただければ方向性が出てくるのではないか。

今後の進め方基本的考え方を出していただきたい。

委員 私も学校評議員として附属高校と関わって、学校もいろいろな対応策を考えて実行している。どうしたらさらなる活性化が出来るのか、大月市も高校・大学がなくなればさらに空洞化も進むのではないか。活性化して存続できるような議論が出来ればと思う。

委員 存続するののかしないのかということですが、これは活性化策にもつながると思いますが、平成13年6月の教育懇話会の提言に教頭先生からこういう対応をしましたとの説明がありました。3年経って、その効果も出ていると思います。これから存続をして活性化ということの話し合いの中で、どのような効果があったのかの議論になると思うので、次回までにはその提言を受けて実践をしてその結果がどのような形で現れているのかそのデータをいただきたい。

もう、一点、大月市の教育行政において市が附属高校を設置したという市の教育を考えた中で、どういう形で高校の存在価値を考えているのか、存続を考える母体としての市が、子供の減少とか財政的な困難だけで存続するしないでなく、大月市の子供の将来像・大月市の教育の形を考えた高校の存在意義を提示していただきたい。

委員 今日資料をいただいたわけですが、ここで初めて見るというのではなかなか考えもまとまらない。前もって要望のあった資料を個々の委員に郵送していただきたい。

議長 事務局に次回からお願いしたい。

委員 最初から存続というより、どうしたら活性化できるのか、魅力ある高校にするにはどうしたらいいのかを検討した方が、方向性が出てくるのではないか。

議長 どうしたら発展・活性化が出来るのか、どうしたら生徒が入学したい高校になるのか、それが可能なのか、どんな問題があるのかこういう事を踏まえて対応していきたい。事務局から来年の3月までに答申を出すという依頼なので5回ぐらいでまとめたい。次回までに活性化策を前提に資料を検討分析いただきたい。

委員 中学生は県立高校を希望している。附属高校に行きたいと言う何かブランド性がないとだめなのではないか。今まで何回かこういう事をして結果が出ないでそのままになっている。もっと危機感をもって、具体的目標を掲げ期限を決めてそれが達成できたら存続、達成できなかつたら廃止というはっきりした形にすべきではないか。

議長 地域の県立高校との関わり、財政的なこと、少子化の問題等いろいろありますが、附属高校の発展や活性化をどう図っていくかという視点で資料を検討していただきたい。次回については、月1回ペースで事務局の予定はどうでしょうか。

事務局 資料の最後にカレンダーを添付してありますが、これを参考に10月中旬までの中でお願ひしたい。事務局としては11日か12日にしたい。

事務局 学校は12日から試験で半日になります。

議 長 次回は、10月12日水曜日です。内容については、繰り返しますがいかにしたら魅力ある附属高校に出来るのかという視点で、問題点、課題を考えて資料を検討していただきたい。